

魚類の生活色について(第6)

黒田長禮

On the life colors of some fishes. VI.

Nagamichi KURODA

(87) **アオヤガラ** *Fistularia villosa* KLUNZINGER. 1946年9月8日沼津市志下のイワシ夜網の中に成魚(全長尾糸を除き450mm, 尾糸長210, 頭長158)1点あり入手した。背面は成魚の為め幼魚の如く帯緑色でなく, 暗褐色で所々に幅広の稍々暗横帯がある。嘴も暗褐色で幾分濃く不判明な暗色帯があり, 嘴両側は多少桃色を帯び, 上嘴側には所々に桃色の斑を示す。顔側・項部には桃色を帯び, 体側より下方は銀白色で, 前方は多少黄金色を帯び, 後方には少し桃色を帯びる。鰓蓋に帯黄金色光がある。P. は円形で白色, D. は尖り, 上縁と先端は橙黄色, A. は尖り先端は桃色を帯びる。C. は極く淡桃色で外縁は淡黒色, 中央の糸状物は幾分桃色を帯び, V. は小形で短く白い。虹彩は銀色で, 上方は暗褐色。

1955年8月16日に志下沿岸にて採集の成魚(全長尾糸を除き301mm)でも体に有帯を示した。即ち嘴上に4個, 体に12個の地色より僅かに暗色なる灰色横帯を有していた。この帯は成魚には常にあることのように思える。

(88) **サギフエ** *Macrorhamphosus scolopax* (LINNÉ). 1946年3月27日土肥沖手繰網(100尋)で漁獲の稚魚2点は全長57.5mmと76mm, とである。背方はバラ灰色で, 前者では背に鞍状の灰色斑を有する。口の管と背の長棘とは淡バラ色。その外の体色は成魚同様に赤色が強い。虹彩は銀色。

岡田・鈴木両氏(1951)はサギフエの学名を歐洲産に併せ, ダイコクサギフエも同一種内の変異とされたが, 本篇では仮りに蒲原氏(1950)の分類によつて2種と做す。

(89) **ダイコクサギフエ** *Macrorhamphosus gracilis* (LOWE)[或は *M. g. japonicus* (GÜNTHER)]. 1946年1月20日志下手繰網にて本種稚魚1点を入手。背面蒼色と擬黒色の交互斑があり, 尾柄及びC. 基底に1黒点がある。嘴上は擬黒色, 嘴側・顔・体側は帯淡黄銀白色。ID. 第2棘の大なるものは擬黒色, 他の鰭は大体淡色で, C. に多少黒細軟条がある。眼先きと腹方とに4~5個の淡桃色の不判明な斑がある。虹彩は銀灰色, 内細輪は白い。

以上の様に2種の稚魚には相違があり, ダイコクサギフエの方は沿岸にて採られるが, サギフエの方は稚魚でも深海性である点も違うように見える。

(90) **ダツ** *Tylosurus anastomella* (C. & V.) 1946年7月6日志下のイワシ餌で釣獲の

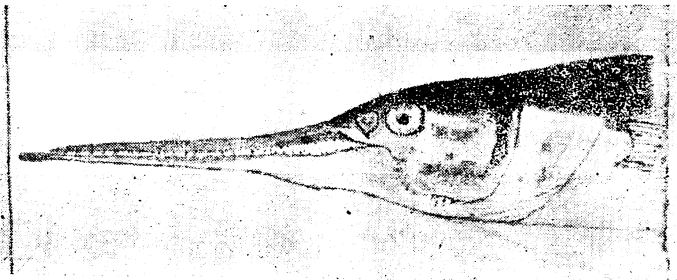


Fig 1. ダツ頭部
志下産 全長855mm
(著者原図)

1例(全長 855, 上嘴は口角から 143, 下嘴は口角から 155mm)は大岡田・内田・松原(1935)日魚図説, pl. 38, fig 1 に一致するが, 私のノートに依れば背面はオリーブ緑色で蒼色を殆んど帯びない。P. の基部上方に 1 暗蒼色斑を認める。腮蓋前骨後部に暗色の微小点よりなる 1 横帯があり, その他微小色素の不規則なる不判明な小斑があるが, 多少帯状にもなる。体の腹側面は光銀色。P. は淡色で上方は擬黒色。上嘴はオリーブ赤色で, 基部側に 藤色の長美の 1 縦帯をなし先方に向い細線となつて走る。下嘴はオリーブ赤色に銀色を帯び, 下顎先端は暗オリーブ色で其の下面は淡色となる。上下嘴に鋭い短犬歯が列生し, 口を閉じれば上嘴の歯は下嘴の内方に収まる。両嘴基部は合わさらず, 多少間隙をなし, 両嘴側方には微小粒状物が多い。虹彩は銀色, 上下に灰色斑がある。

(91) トウゴロイワシ *Atherina bleekeri* form. *bleekeri* GÜNTHER. 1946 年 9 月 24 日志下にて成魚 1 点(全長 168mm)を入手, その後大群襲来し, 同年 10 月 12 日には 80~90mm のものにて肛門が V. の間に開くもの 7 点(78~105mm)を調査した。背面の地色は淡灰オリーブ色で, 鱗は大きく各々に暗色の小斑があるので, 背面が少々濃色に見える。体側にも微小点が縦列状にあつて, 体側中央に 1 淡緑色(chrome green の淡き色)の 1 縦線(巾 1mm)が通り, その最前方凡そ 12mm 位は蒼黒色を呈する。次に銀白の広縦帯(巾 4mm)が通り, 光線により多少淡桃色の光がある。次に巾 1mm の淡緑線が通るが, 上方のものに比し不判明で, 光線によつては見られない。以下の腹面は銀白色である。吻と上下唇は暗色, 腮蓋は銀白色で, その後骨に 1 大暗色斑がある。C. は淡色で軟条に多少の暗色があり, 後縁は少しく擬黒色で, 上下両葉に多少淡黄色を帯びる。その他の D., P., A. の各鱗は白地に軟条が多少暗色を呈する。尤も V. は純白である。虹彩は上方暗褐色, 下方銀白色である。

(92) ツバメコノシロ *Polynemus (Polydactylus) plebejus* (BROUSSONET). 1946 年 9 月 13 日志下にて入手の全長 135mm のものでは背部は灰蒼色で, 各鱗に蒼光を放つ。7 条程の小点からなる縦線が通る。吻は淡色, 頭側は大部分黄色を帯び光があり, 腮蓋中央に 1 蒼色大斑がある。是等の部分の多くは微小暗点を有し所々に密在する。上下顎唇には多少桃色を帯びる。ID. の膜は灰黒で先上方は黒く, 一体に微小暗点を密布する。II D. も同様で一体に淡色。大体側線から下方は銀白色に黄色と蒼色の光輝がある。P. はオリーブ黄色を帯び, 先方擬黒で多少尖り, 微小点がある。P. 下部軟条 5 は遊離して延長(最長 29mm)し, 外方の 3 条は少々短く(15—21mm)白色, 外の 3 条は淡黄色を帯びる。V. は白色で微小点を有し, A. は灰色でそれに微小点が密在し, 第 1 棘は白色である。C. は暗オリーブ色で, 先端黒く, C. の基部に蒼色光部がある。

嘗つて小型の個体で各鱗が全部真黒色のものと然らざる淡色の個体とを沿岸で同時に採集したことがあつた。

(93) ヒウチダイ *Hoplostethus mediterraneus* C. & V. 1947 年 12 月 27 日伊豆戸田沖トロールにて可なり多量に漁獲された。その 1 点(全長 157mm)は背面帯桃暗褐色で, 側線下前半は淡蒼銀色, 後半は帯桃色に多少黄金光沢がある。頭は淡紅白色, 額・吻端・下顎端・肩部等に淡赤桃色を帯びる。腮蓋前骨下方・同後骨後方・腹側には蒼色を帯び, 殊に最後者にあつては色が濃い。D. は前方棘程短かく(特徴), 各棘軸は淡紅色で膜は灰白色, 上方の膜縁は黒く, 軟条部は上半淡蒼灰色を帯び, 下半淡紅色で, 膜は下方のものは白色に近い。P., V., A. は凡べて美しい淡紅色, C. は深く 2 叉し, 基半程濃バラ色である。腹側に淡蒼色の点列がある。虹彩は銀色で褐色の斑が 2 つ位ある。

(94) エビスダイ *Ostichthys japonicus* (C. & V.). 1945 年 10 月 24 日千本沖手繰網中の 1 尾(全長 206mm 幼魚)を入手。大岡田・内田・松原(1935)日魚図説, pl. 45, fig. 2 に一

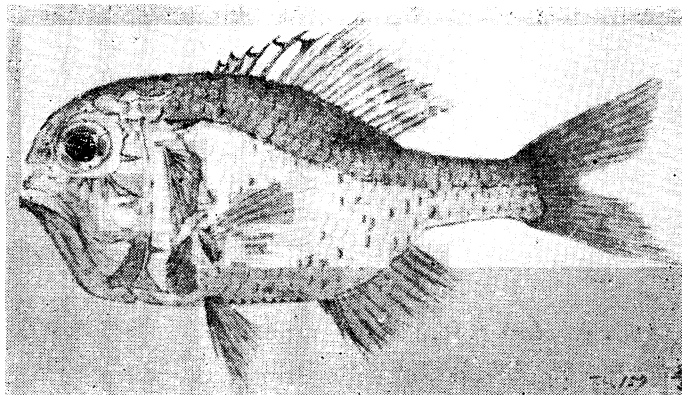


Fig 2. ヒウチダイ
 供豆戸田沖
 全長 157mm¹
 (著者原図)

致するが、側線より下は帯黄金白色、各鰭の中央は特に光る。虹彩は鮮紅色で体色よりも著しく赤い。私は又 1947 年 2 月 7 日千本沖での中成魚 (全長 260mm) を得て試食したが、肉が柔いが少しく脂肪があり、煮付としては美味の方であつた。

(95) フウライカマス *Nealotus tripes* JOHNSON. 1956 年 8 月 14 日志下海岸に多くのサバフグが捨てあり、それに混じていたこの種 2 点を拾得した。頗る新鮮のもので、体色は灰銀色で背方は色が少々暗色であるが、クロシピカマス (スミヤキ) の様に一体に黒くはない。側線は後頭から斜めに C. 迄直通し、クロシピカマスの様に前方にて急に波形に彎曲下走しない。肛門直後に大小剣状棘あるのも特徴である。従来駿河湾の例はあるが志下での拾得はこれが始めてである。虹彩は黄金色。体の測定は次の通り。

標品番号	全長	体長	体高	副鰭数	V.	肛門直後棘
1074	220	189	30	2	I	II (大小)
1075	198	168	30.5	2	I	II (大小)

(「動雑」61 (5) : 136 (1952) 参照)。

(96) タチウオ *Trichiurus lepturus haumela* (FORSKÅL). 1947 年 12 月 26 日志下沿岸シラス手繰に入つた稚魚 2 点を入手した。全長 129, 体高 6mm, 他は全長 165, 体高 7.5 mm 上顎は明に下顎より短い。頭及び全身は胡粉白色で、尾の糸状部 (長さ 15mm 位) のみ灰色を帯びる。頭及び体の胡粉は物にすれると直ちに剥げ、水中では丁度胡粉を溶いた様になり、手にもつく。剥げた部分は暗桃色の地色を顕わす。上下顎共に先端は少しく暗色、上顎の会合部にも細黒線がある。虹彩は真銀白色である。

成魚を志下沖 1 里位の処にて夜釣りしたが釣れた魚の躍ねる状は恰も太刀をかざすにて勇壮である。夫れで方言でタチ又はシラタチと云い、クロシピカマスをサピタチ、カゴカマスをギンサピタチと云うのは誠に面白い。

Résumé

The part six of this article contains detailed descriptions of life colors of ten species (nos. 87-96) of several genera found in Suruga Bay, Japan. The interesting species are as follows: *Hoplostethus mediterraneus*, *Ostichthys japonicus*, *Nealotus tripes*, etc.